



だより



R6.1.31 Vol.35

中間発表会がありました！

昨日、環境教育への取組発表として、全校集会を行い、市内の先生方にもご参観いただきました。またまた月並みですが、子供たちの頑張りに感激しました。集会に向けて、それぞれの先生がそれぞれの立場で指導し、子供たちの表現力育成に携わっています。集会の成功は結果であって、私が大事にしたのはそこまでの過程です。例えば、いきなり張りのある声を出せと言われても、出せるものではありません。日々の学習や人との関わりの中での地道な指導と子供たちの頑張りが結果につながるわけです。

環境教育を機軸とした取組は来年度も続きます。これからもそれを通して、子供たちの心身の健やかな育成に取り組んでいきます。



朝の風景

私は石城の朝の風景が大好きです。特に冬の晴れた霧の出ていない朝。まだ少し暗い時間にトンネルを超えて石城に入ると、四方、山に囲まれた水田地帯が目に入り込んできます。学校前から見ると東にある山の稜線がうっすら黄金色に染まっています。日の出までであとわずかです。稜線の下に見える山々はまだ黒い影を落としており、薄黄金色の空と対照的です。西側にある郷内の山々は、光がわずかに差し込み始め、ほのかに朝焼け色に。日の出までのわずかな静寂の中で、刻々と変化する自然の色彩の妙に心を奪われます。

霧が出ている日も、それはそれで情緒があります。一面、真っ白になっている日もあれば、まるで薄雲のように田んぼの少し上を漂っているように見える日もあります。霧が徐々に晴れていく様もまた、いとおかし。春夏秋冬、様々な表情を見せてくれる石城の自然。大事にしていきたいですね。

四方山話令和5年度 ver.其の三十五(たまにはどうでもいい話)

先日、同級生3人で食事に行き、二次会で久しぶりにカラオケに行きました。酔った勢いで決めたテーマは「昭和万歳！」昭和の歌メドレーになりました。(笑)その中で私が歌った一曲がちあきなおみさんの「喝采」。1972年、私が5歳の時の歌でした。子供はもちろん、保護者の皆さんも生まれていない方がほとんどではないですか？5歳の頃に左手を上を挙げながら、これを歌っていた記憶はありませんので、おそらくその後のテレビ番組やらなんやらかんやらで、いつの間にか覚えていたんでしょうね。動画配信サイト等見ていると、御本人の映像はもちろん、カバーされたり、ものまねされたりしている方がたくさん出てきます。中には中学生が切々と歌い上げている動画も…。名曲が名曲と言われる所以でしょうか。過ぎた昭和に郷愁にも似た感情を抱きながら、これからの老い先も3人楽しく生きよう！と訳のわからない決意表明をして、御開きとなりました。

老い先と言え、40？45歳を過ぎた頃からでしょうか？歳を取るごとに1年がすごく早く過ぎていくように感じています。保護者の皆さんはまだそんな感覚はないですか？例えば、子供の頃の夏休みと言え、目の前に茫洋とした夏休みという大海原が広がり、そこに漕ぎだしていく終わりのないもののように思えていたのですが、今は7月が終わると、もう二学期のことが頭の中をちらつき始めます。(立場の違いも当然あるんでしょうけど…)

本を読んでいると、まさにその感覚に触れている内容が目にとまりました。『日常において、時間は遅くなったり、速くなったりはしない。言ってみれば同じ速さで流れている川のようなもの。その「時」という川べりを歩きながら生きているのが人間。若い頃ならば、その流れと共に、時にはその流れよりも速く動けた時期もあるだろう。しかし、年を重ねる中で肉体は衰え、その流れについていけなくなる。結果、相対的に時の流れが速くなったように感じるのだ。』「なるほどお〜！」思わず本に話しかけていました。確かに歳と共に、肉体は衰えていきますが、感性はいつまでも鍛えていきたいですね。ほんとにどうでもいい話でした。おしまい。笑